良野の宝篋印塔

よしののほうきょういんとう

文化財愛護シンボルマーク

名　　称	良野の宝篋印塔	時　　代	南北朝時代～室町時代初期　14 世紀
別　　称	石造宝篋印塔、良野の石造宝篋印塔	所 在 地	加古川市野口町良野 1027 番地
数　　量	１基	所 有 者	良野中町内会
寸　　法	総高　228cm（基壇－相輪）	指　　定	兵庫県指定文化財
	高　191cm（基礎－相輪）	指定分類	建造物
材　　質	石造、花崗岩製	指定名称	石造宝篋印塔
		指定年月日	昭和 50（1975）年３月 18 日

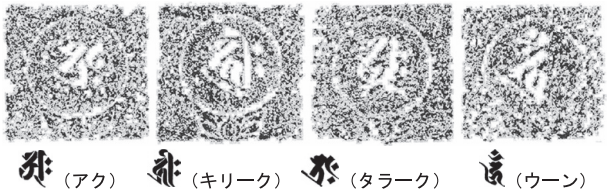
良野の宝篋印塔

野口町良野にある観音堂の南側に墓地があり、正面入口の向かって左側に、花崗岩製の宝篋印塔が建っています。塔に銘文などがないため、具体的な造立年代はわかりませんが、全体の形状から南北朝時代から室町時代初期につくられたものと考えられています。

宝篋印塔とは、基礎、塔身、笠、相輪などからなる塔婆のひとつで、笠を段形につくり、軒の四隅に隅飾を立てた形をしています。宝篋印塔という名は、内部に宝篋院陀羅尼の経文を納めたことに由来するといわれますが、おもに供養塔や墓碑として造立されました。

この塔は、二重の基壇の上に据えられており、下段は延石で、上段は２石に分かれ、各辺に複弁三葉、四隅に複弁の反花が彫り出されています。

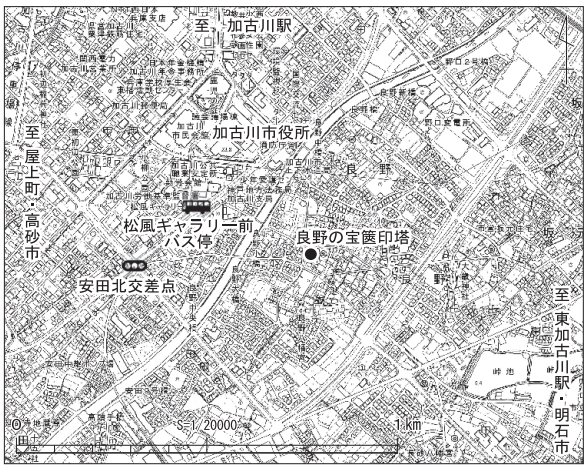
基礎は、上部の各辺に中央複弁一葉、四隅に複弁の反花が彫り出されています。各側面に輪郭を巻き格狭間を入れ、現在の正面（東面）だけに開蓮華が大きく刻まれています。



塔身拓本

塔身は、各面に蓮華座付きの月輪を彫り沈め、中に金剛界四仏の種子を刻んでいます。本来は東面が（ウーン、阿閦如来）、南面が（タラーク、宝生如来）、西面が（キリーク、阿弥陀如来）、北面が（アク、不空成就如来）となりますが、現在は背面（西側）に（ウーン）があり、本来の方角から反転しています。

笠は、下二段上六段の定型式で、隅飾は二弧で輪郭を巻き、西面の左右だけに月輪を薄肉彫りし、中に

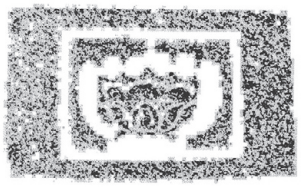


良野の宝篋印塔遠景

胎蔵界大日如来の種子（ア）を刻んでいます。

相輪は、覆鉢、下の請花、九輪、上の請花、宝珠が一材でつくられています。現在は六輪目より上を欠損しており、折れた部分を接合しています。

この塔は、各部がよく整っており、中世における加古川地域の石造文化の豊かさを物語る貴重な石造品といえます。


基礎正面拓本

［各部寸法］

相輪…現高 64cm　笠…高 46cm・幅 55cm

塔身…高 32cm・幅 32cm　基礎…高 49cm・幅 67cm

基壇（上部）…高 27cm・幅 84cm

基壇（下部）…高 10cm・幅 103cm

（拓本／『加古川市史 第７巻』より転載、文･写真･採寸／古林）

●参考文献

『加古川市史 第７巻』加古川市（1985 年）

●キーワード

建造物　観音堂　花崗岩　宝篋印塔　金剛界四仏　種子　胎蔵界大日如来

●所在地／兵庫県加古川市野口町良野 1027 番地

●交　通／ＪＲ加古川駅南口発かこバス別府ルート「松風ギャラリー前」バス停から東へ徒歩５分

車は加古川バイパス「加古川ランプ」から南へ３km

編集・発行：加古川市教育委員会 文化財調査研究センター

令和３年３月 31 日(2021.03.31／1000)